産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

〝よくここまで来た〟

木田バルブ・ボール 木田義一会長 ㊤

木田バルブ・ボールを創業したのは1964年のことだ。当社はボールバルブの心臓部であるステンレス製ボール（弁体）の製造を手がけ、現在は国内約60％のシェアを持つ。約40年間をバルブボール一筋でやってきたが、われながらよくここまで来たと思う。

製造業を始めるまで、私は家業の夏菊の生産・卸・小売りを手伝っていた。高校に進学したものの勉強より実業の方が面白く、一学期で中退してしまった。現在の本社工場がある大阪府東大阪市玉串の周辺は当時、菊の農家がいくつかあった。ただ、大阪という大都市近郊でいつまでも菊農家が続くとは思わなかったし、何か事業を起こしたいという気持ちも持っていた。

製造業を始めた発端は、鉄工所に勤めながら大学に通っていた6歳年下の弟（元専務）が独立して工場を持つため旋盤を一台買うと言い出したことだった。現在のヤマザキマザックの前身である山崎鉄工所の旋盤は当時190万円近い値段で高価だった。購入費用の半分を実家で負担し、残りは月賦で払うことに決め、現在の本社から少し離れた畑の一角に100平方㍍ほどの工場を建てた。

当初はエアシリンダー用のシャフト、フランジ、パイプといった部品を作っていたが、旋盤一台だけの設備では仕事にならなかった。刃物や治具も購入しなければならず、初めのうちは収入より支払いの方が大きく3、4カ月たつと弟が「やめようか」と言いだした。しかし、そんなに短期間でやめてしまっては近所の笑いものになる。石の上にも3年というから最低でも3年は続けるよう弟に話したところ、「（兄さんも）家業の合間に手伝ってほしい」と頼まれた。鍬（くわ）とハサミしか握ったことがなかったが、私も鉄工所を手伝うことになった。

しかし、最初の5―6年は正月くらいしか休みがないような状態だった。3年目くらいから自分で営業に出て仕事をとるようになり、フライス盤、ボール盤などの機械も少しずつ買い足した。5年目にはようやく職人も雇い、工場も現在の場所に移転した。（大阪府東大阪市）（全3回）

国内シェア約60％のステンレス製バルブボールを手にする木田会長

トップインタビュー

明和製作所社長（九州・山口産業人クラブ）生野 岳志氏に聞く

2人乗り小型EVに搭載 SRモーター 次世代市場を開拓

九州・山口産業人クラブ会員の明和製作所（福岡県糸島市、092・322・3111）は、モーターを主力に減速機やダイカスト製品を製造する。同社カスタム設計・小ロット生産で合理化を図り、厳しい時代を勝ち抜く。またレアアース（希土類）を使わないスイッチト・リラクタンス（SR）モーターで、次世代市場を狙っている。生野岳志社長に展望を聞いた。（西部・三苫能徳）

◇

―電気自動車（EV）用SRモーター開発に取り組んでいます。

「このモーターは西日本工業大学や福岡工業大学、自動車メーカーと開発中の2人乗り小型EVに搭載する。高齢化により国内で最も伸びる分野だろう。海外でも市場性が見込める。2011年度中に生産ラインを整えたい」

―SRモーターは大手も参入しています。

「資源危機で注目された、古くて新しい技術。多用途が期待できるが、当社の身の丈と成長分野を考えて的を絞った。10年間の経験があり、独自技術も持つ。高速回転や堅固さの特徴を生かして、従来型モーター並みに効率性を向上させる」

―電動バイク販売も順調のようです。

「小型から大型スクーター、小型4輪を販売している。福岡県内26店舗でサポートやメンテナンスを受けられる。観光用レンタル事業も好評だ。一時間500円からレンタルできる。糸島市は山も海もある風光明媚（めいび）な地域。環境に優しい電動バイクはぴったりだ。市内10カ所に充電スポットを設けた」

―事業の幅が広がっています。

「モーターメーカーとしてはグローバルに、電動バイク事業は地域密着型事業にしていきたい。またEVを実用化して、派生的な製品開発も手がけたい。近隣に点在する滝を使った水力発電にも関心がある。自然エネルギーを活用するインフラに貢献できる企業を目指す」

―産業人クラブに期待することは。

「台湾の経済状況についての講演会はとても役立った。その後、実際に台湾を訪問して、EVメーカーを視察した。中小製造業は生き残りが厳しく、アジア各地との連携がさらに重要になる。産業人クラブには情報交換の場や啓発を一層期待したい」

しょうの・たけし　86年（昭61）大阪外大（現・阪大）外国語学部卒、同年ヤマハ入社、04年退社。05年立命館アジア太平洋大院経修士修了、同年明和製作所入社、06年社長。大阪府出身、49歳。

トピックス

新潟 コイデエンジ ラジオ体操で〝人間教育〟

ラジオ体操（写真）と朝礼を38年間行い、心身ともにプラスエネルギーを入れて社長はじめ全社員が元気な会社がある。コイデエンジニアリング（新潟県三条市、小出茂社長、0256・45・2234）だ。液晶やリチウム電池などの関連装置や自社装置の設計開発製作を手がける。

小出社長は日立製作所で設計開発に携わっていたが27歳の時、独立して設計事務所を開設した。それ以来、毎朝8時20分に社員が駐車場に集合。おはようございますの後、膝を高く上げる足踏みを5分、ラジオ体操を3分して体を柔らかくする。雨天は社内でする。

全員は体操が終わると同時に事務所まで走り、小出社長の元気な朝礼が始まる。こんにちは、ありがとうございますなど18の基本語を全員が大声で唱和。ここで気持ちが〝シャキッ〟となる。続いて社訓や5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾〈しつけ〉）、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の内容を唱和する。今日も頑張ろうと意気が高まる。

最後は一人が前に出て1分間スピーチする。これは人の前で、あがらずに意志や考えを伝達できる話術上達の狙いがあるとか。小出社長は「企業は人だ。人間教育に力を入れてきた」と自信をみせる。管理者養成学校に毎年一人を2週間送り出している。同社は、5Sで社内のすみずみまできれいに明るい環境で元気に満ちている。

小さくても本物

長野 北信帆布 農産物や花を保冷

テント設計・製造の北信帆布（長野市、福島一明社長、026・221・3500）はテント構造の倉庫や冷蔵庫に力を入れている。このほど開発した「仮設組み立て式冷蔵庫＝写真」は農産物や花など保冷が必要な商品の保管に役立つという。農家やスーパーなどに売り込む計画で、福島社長は「仮設というメリットを前面に出していきたい」と意気込んでいる。

13日から千葉市の幕張メッセで開く「第8回国際フラワーEXPO」に出展する。大きさは高さ約2㍍で床面積約3.3―約9.9平方㍍の3種類を用意。箱形テントと冷凍機を組み合わせた商品で畑や果樹園など屋外で使える。価格は3.3平方㍍タイプで「70万円以下にしたい」と価格を抑える考え。

1909年創業の同社は近年、公共事業や設備投資が抑制される中、新たな需要を創出するためテントの機能化で活路を見いだそうとしている。仮設組み立て式冷蔵庫はテントの特性を生かしてリンゴなど農産物の収穫期、仏花販売が集中するお盆やお彼岸といった時期だけ設置して使用できる。

商品化のヒントを探るために活用しているのが異業種交流で「当事者が困っている情報を聞き出せる」と福島社長。新商品も農家や流通業者との交流によって開発した。今後も人とのつながりを生かした商品開発に取り組んでいく。

10―11月の予定

【10　月】

◇7日（金）―9日（日）埼玉、東京、千葉、茨城産業人クラブ「4都県産業人クラブ合同　若手・地域間交流会　in　札幌」（札幌市内、石屋製菓など見学）

◇12日（水）埼玉産業人クラブ「分科会」講師：東芝首都圏支社支店長・田尻澄夫氏（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇12日（水）東京産業人クラブ女性部会「10月例会」講師：法政大院教授・坂本光司氏（東京都千代田区、KKRホテル東京）

◇17日（月）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「役員会」（さいたま市浦和区、彩懐石うらわ高砂）

◇18日（火）東京産業人クラブ「東京都立産業技術研究センター見学会」（東京都江東区）

◇19日（水）埼玉産業人クラブ特別講演「企業の危機管理を考えるセミナー」講師：技術士・黒澤岳夫氏、経営士・豊田賢治氏、新建新聞社リスク対策・COM編集長・中沢幸介氏（さいたま市浦和区、浦和コミュニティセンター）

◇19日（水）―20日（木）名古屋、大阪、滋賀、中国四国産業人クラブ　見学・交流会「びわ湖環境ビジネスメッセと江・浅井3姉妹博覧会」（滋賀県長浜市、滋賀県立長浜ドーム）

◇20日（木）―21日（金）福島、いわき、新潟、宮城、東京など各産業人クラブ「福島モノづくりツアー」（福島市内、福島製作所、北芝電機、富士通アイソテック見学）

◇21日（金）―22日（土）埼玉産業人クラブ・経営研究部会「東日本大震災被災地の視察会」（宮城県多賀城市）

◇24日（月）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「工場見学会」（埼玉県秩父市、埼玉富士）

◇26日（水）東京産業人クラブ・東京産学交流会（サザンクロス）・10月定例会「ランチェスター戦略実践編」講師：戦国マーケティング社長・福永雅文氏（東京都大田区、三井ガーデンホテル蒲田）

◇27日（木）埼玉産業人クラブ「第33回埼玉県産業振興懇談会」第1部：埼玉県幹部を囲む意見交換会、第2部：講演会　講師：キヤノン電子社長・酒巻久氏、懇親会（さいたま市中央区、ラフレさいたま）

【11　月】

◇4日（金）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「学生企業支援プログラム　第6回ビジネスプランコンテスト」第1部・表彰式、第2部・記念講演　講師：三菱自動車工業上級エキスパート・橋本昌憲氏（埼玉県宮代町、日本工業大学）

◇4日（金）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「第27回定時総会」（埼玉県春日部市、料理工房つくし）

◇8日（火）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会「エコグラム研修」講師：サロン・ド・ソノリ社長・中川裕美子氏（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇8日（火）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「親睦ゴルフ大会」（埼玉県寄居町、森林公園ゴルフ倶楽部）

◇8日（火）東京産業人クラブ・東東京マネジメント研究会「親睦ゴルフ大会」（千葉県八千代市、中山カントリークラブ）

◇9日（水）埼玉産業人クラブ「分科会」講師：さいたま総研経営継承事業部・長谷川勇氏（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇11日（金）栃木産業人クラブ「日本機械学会栃木ブロックとの交流会」（宇都宮市、ホテル東日本宇都宮）

◇14日（月）東京産業人クラブ・東京産学交流会（サザンクロス）「2011年度定時理事会・総会」講師：ティーケーアソシエイト会長・津上健一氏（東京都大田区、三井ガーデンホテル蒲田）

◇14日（月）茨城産業人クラブ・経済討論会「工場長サミットー震災後の茨城のモノづくり」モデレーター・関東経済産業局地域経済部長増田仁氏（水戸市、水戸京成ホテル）

◇14日（月）千葉産業人クラブ「2011産学官シンポジウム～復旧・復興に生きる技術と支援～」（千葉市中央区、三井ガーデンホテル千葉）

◇17日（木）首都圏産業人クラブ・日刊工業新聞社「産学官シンポジウム～新時代を築く若き挑戦者」（東京都千代田区、ホテルグランドパレス）

◇17日（木）―19日（土）名古屋産業人クラブ・岐阜産業人クラブ「島根県の産業と観光　視察会」（松江市ほか）

◇18日（金）首都圏産業人クラブ「親睦ゴルフ大会」（神奈川県葉山町、葉山国際カンツリー倶楽部）

◇18日（金）―19日（土）埼玉産業人クラブ「ポラスグループ　ポラテック滋賀工場視察会」（滋賀県甲賀市）

◇22日（火）埼玉産業人クラブ「親睦ゴルフ大会」（埼玉県狭山市、武蔵カントリークラブ笹井コース）

◇25日（金）千葉産業人クラブ「秋季ゴルフコンペ」（千葉市若葉区、袖ケ浦カンツリークラブ・新袖コース）

第54回ゴルフ大会 原田氏が優勝

NITEC埼玉産学交流会

埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会（長谷川勉会長＝長谷川鉄工所社長）は9月16、17の両日、第54回ゴルフ大会と1泊懇親会を栃木県那須町で開いた。初日は、塩原カントリークラブでのゴルフ大会（写真）。グリーンで苦戦してスコアを崩す会員もいた中、ミック（埼玉県日高市）の原田岳巳社長がネット72・8で優勝。2位にエフテックの昼間勉副社長、3位に金子製作所（さいたま市岩槻区）の金子晴房社長が入賞した。

プレー後、参加者は松川屋那須高原ホテルの温泉で休憩。その後の懇親会では、くつろいだ気分で歓談した。会合は、長谷川会長による三味線の演奏披露で盛り上がるなど、産学の交流をますます深める場となった。

佐藤学部長を副会長に選任

TDU産学交流会が総会

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会（佐藤達雄会長＝アーベルソフト会長）は9月26日、埼玉県川越市の氷川会館で、第22期通常総会を開いた（写真）。会員企業や東京電機大学関係者ら33人が参加。議案審議の承認に続く役員改選では、新たに佐藤定夫東京電機大学理工学部長を副会長に選任。新理事に岡崎孝宣東京理工舎社長、椎葉究東京電機大学教授、遠藤正樹同准教授を、新幹事には浜野尚吉共同技研化学社長を選任した。

記念講演では川田工業栃木工場の菊池和男技術担当次長が「東京スカイツリーの製作と現場架設」をテーマに講演。大口径管の加工や現場架設などの苦労話を披露した。

懇親会では、古田勝久東京電機大学学長が、昨今の大学生が置かれた厳しい就職環境に言及しながらも「本学から会員企業の皆さまによい人材を提供したい」と意気込みを語った。参加者らは和やかに産学の交流を深めた。

「事業承継」テーマ 参加者の関心高く

埼玉ビジネス研究会

埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会（小原敏治会長＝小原歯車工業社長）は9月22日、「じっくり訪問シリーズ第15弾」として東京都渋谷区の東京中小企業投資育成を訪れた。今回は同社の瀬口敬三取締役が中小企業の事業承継をテーマに講演（写真）。冒頭、小原会長は「我々にとって、とても勉強になる内容」とあいさつ。参加した若手経営者ら10人は真剣な表情で講演に耳を傾けた。

瀬口氏は事業承継や経営紛争のパターンなどを紹介。「紛争は一度起こると解決するのは難しい。予防することが重要」と強調した。予防策として、経営権の維持・管理や開かれた会社作りなどについて説明した。

スカイツリー見学会開く

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会（佐藤達雄会長＝アーベルソフト会長）は9月30日、東京都墨田区業平の東京スカイツリープレゼンルームで東京スカイツリーの見学会を開いた（写真）。会員や東京電機大学から13人が参加。東京タワーのほぼ2倍高さになる世界的にも屈指の高さの電波塔を身近に感じる良い機会となった。

冒頭に施設紹介ビデオを見学。続いて行われた工事現場での見学では、間近にスカイツリーを見ながら、施設各部の特徴や用途の説明に耳を傾けた。見学終了後にはビデオで、中央心棒を用いた「法隆寺の構造に似た」耐震構造などを確認。地上高さに比べ浅くても十分な揺れ強度を備える特殊な地下基礎構造や「登頂の公差が5㍉以内」など構造上の傑出した特徴が詳しく披露された。質疑応答では、質問がとぎれることなく続いた。

9月例会 新商品生み出す発想法テーマに

東京産学交流会

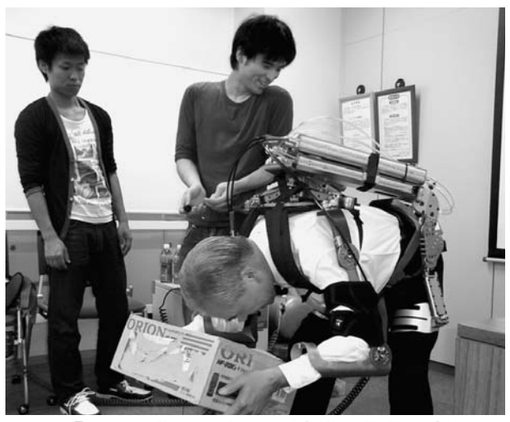
東京産業人クラブ・東京産学交流会（渡辺佳英会長＝大崎電気工業会長）は9月21日、9月例会「イノベーティブな発想を生む双方向型セミナー『発電会議』」を東京都大田区の三井ガーデンホテル蒲田で開いた。

モノづくり中小企業の創業や新製品開発を支援するenmono（東京都港区）の宇都宮茂氏らが進行役になり、製品・事業開発の担当者ら十数人が新商品を生み出しやすい発想法について考えた（写真）。

enmonoはモノづくりは製造業だけの仕事ではなく、「誰でも町工場に企画提案できる」をモットーに発足したコンサルティング会社。参加者は三つのグループに分かれ、自己紹介や頭の柔軟体操の後、打ち解けた雰囲気の中で「部下に贈りたい賞品」について知恵を出し合った。学習能力を向上できる安眠枕や男女が3㌘以内に接近しないと充電されないカップル向けソーラー電波式腕時計など、部下へのねぎらいと感謝の意味を込めた賞品が多数考案された。

東京理科大の2氏が講演

東東京マネジメント研究会



「マッスルスーツ」を試着する参加者

東京産業人クラブ・東東京マネジメント研究会（嶋田貫一会長＝高橋木箱製作所社長）は9月28日、東京都中央区の日刊工業新聞本社でゼミナールを開いた。2013年4月にJR金町駅（東京都葛飾区）周辺に葛飾キャンパスを開設する東京理科大学から講師を迎え、着用型動作補助装置「マッスルスーツ」に関する研究のほか、大学の研究成果を実用化する枠組みとして「技術研究組合制度」について講演を行った。

第1部で同大学の小林宏工学部教授が、腰の動きを補助するマッスルスーツを着用すると、筋力使用量を最大60％以上低減できることなどを紹介。介助者を補助するスーツとして実用化が迫る中、「最終的に介助される人を助け、介護者の自立を支援したい」と目標を述べた。同スーツを試着した参加者からは「まるでサイボーグ」などの感嘆する声が聞かれた。

第2部では同大学の藤本隆科学技術研究組合制度を解説。同組合で実用化に向けた製品改良や市場開拓を進めた上で事業化する方が、「ベンチャー企業設立などに必要な資金面でのリスクを軽減できる」と述べた。産学連携を進める参加者からは「経営の選択肢が広がった」などの意見が多く聞かれた。

新入会員

千葉産業人クラブ

▽**石黒　真史氏**　商工中金千葉支店長（千葉市中央区新町3の13、043・248・2345、金融機関）

名古屋産業人クラブ

▽**片桐　清志氏**　シーキューブ取締役相談役（名古屋市中区門前町1の51、052・332・8001、通信建設業、ユーザーシステム関連事業、ネットワークインフラ関連事業）